
STRANGER

YOU

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

STRANGER

【Nコード】

N6752N

【作者名】

YOU

【あらすじ】

人生を捨てた一人の男性に奇妙なことが…最後の最後までわからない結末が。

STRANGER

都内の目立たない、ある場所に暮らしている、独りの男性がいる。

彼は昔勤めていた会社をクビになり、世の中に恨みもつてた。

毎日のように

「会社なんか潰れてしまえ」

など、

こういったことしか口にしなくなっていた。

生活もだんだん苦しくなり、とうとうドン底の人生まで落ちてしまった。

普段呑んだりしなかったが、呑まずにはいられなくなり、お酒の力までかりるようになっていった。

夢も内容がめちゃくちゃで、登場人物が知らない人ばかりで、寝るのも嫌になっていた。

そのまま半年が過ぎようとしていた。

すると一通のハガキが家にとどいた。

「こんな俺にハガキなんて誰なんだよ、イタズラか」

内容は同窓会が開かれるということだった。

彼はこんな人生を過ごしていることを知られたくなかったので、いきたくはなかったが、逆にいかないと変な噂がたつかもしいないと思いい、仕方なしに、同窓会に出席した。

すると、同窓会であの変な夢にでてきた友人をみつけた。

話す話もなかったので、自分が見た夢の話を話した。

「この前さあ、お前が夢にでてきてさあ……」
と彼は言った。

「なんだよその話」

友人は戸惑った表情をしながら話を進ませていった。

彼は久しぶりに人と会話をしたものだから、

楽しくてやめられなかった。

妄想の話までするようになっていった。

「同窓会で、小さいときに恨みをもっていたやつが復讐をするとか
ありえるよな。ここでいきなり殺人事件なんてな」

と笑いながら冗談で、しょうもない話までしていた。

友人も話に一応のつてあげた。
すると

一人の女性の叫び声が聞こえた。

トイレの方からだ。

かけよってみると、大勢の人が集まっていた。

何があったのか尋ねてみようとした。

足下をみると男性がナイフでひと突きに、背中にささったまだった。

彼は話ていたことが、本当におこってしまい。

変な気持ちになってしまった。

同窓会は中止なり、

彼は帰宅した。

「とんだ同窓会だ。」

彼はこう呟きながらこの日を終えた。

その後、彼は同窓会を気に友人と会う機会が多くなった。

友人と会話していることが彼の今の生きる楽しみになっていた。

別に会話の内容もたいしたことない。

世の中に対する愚痴ばかりだ。

「××会社の社が長飛び降り自殺とかしたらな……」
彼は言った。

友人も彼のいったことをそのまま繰り返して笑っていた。

この日は朝まで二人で呑み、朝をむかえた。

テレビをつけると、

××会社社長自害

こういった速報が流れてきた。

彼は啞然としていた。

この前の同窓会のとときと同じ気持ちになった。

「なんか変気分だ……」
彼は言った。

「どうしたんだ。身体でも悪いのか。」

「違うよ。俺達が話ていることが全部現実起きていてるじゃないか。この二つの事件は大きいけど、小さい話だって現実に起きてるし、この前の同窓会の帰り、タクシーは飲酒運転で事故を起こすかもしれないから、電車で帰ろう。って二人話してたじゃないか。実際は電車の方が安くつくからだっていう理由なのにさ。つでタクシーは実際逆車線走り、トラックと衝突、死者はなかったものの、重症負ったじゃないか…。」

彼は声を震わせながら言った。

「確かに」

友人は驚きもしないで、真顔で答えた。

「…よくお前は平気でいられるな…」

彼は戸惑った口調で言った。

「だってさ、お前9時になったら身知らぬただの通行人に、家に入ってこられて刺されて人生おわるんだよ。」

友人は何かにとりつかれた様な口調と目つきで言った。

「…なに言ってんだよ」

彼は弱々しい声で言った。

「9時だ」

友人は言った。

すると家のドアがぶち壊され、いきなり男性が彼に襲いかかった。彼は胸をひと突きに。

そして殺った男性は、冷や汗をかき、真っ青な顔で、人殺しとは思えない表情をしていた。

男性に

「君が殺ったんだよ。」

友人は言った。

すると男性は、

「…こ…この声だ…この声が俺の頭によぎり、身体がかってに…」

男性はこう友人に言って慌てて家を出た。

一つわかったことは、彼は会社の中枢の役で、会社にかかせない存在で、クビなることはありえなかったということだった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6752n/>

STRANGER

2010年10月9日14時35分発行